

普段通りの行動をしているだけなのに、周りの人を不快にさせてしまった、そんな経験はないでしょうか。言葉遣いや習慣などは、育ってきた環境があらわれやすく「そんなつもりはなかった」と悔やんでも、取り返しがつかないこともあります。

私は男兄弟の中で育ち、兄弟間で物を渡すときに、よく投げて渡すことがありました。もちろん、すぐに壊れてしまうようなものは投げませんが、テレビのリモコンや雑誌などは、ポイポイ投げて受け渡していました。

ある日友達の家で遊んでいるときに、いつもの癖で物を投げ渡してしまい、その家の人にたいそう怒られました。私は「とんでもないことをしてしまった」とすぐに気がつききました。「自分の当たり前は、他の人の当たり前ではない」ことがあります。

一方、私が育った環境の中で身に着けた良い習慣は「自らを律する心」です。私の親は、移動中にゴミを見つけたら拾い、買い物の時、間違って多めのお釣りをもらった時でも「おつりを、多くもらいすぎ」と正直に言うような人でした。私もそれを見て育ちましたので、そのように行動しています。ある時、一緒にいた人から、そのような振る舞いを「かっこいいね」と言われ「負けてられない、俺も真似をする」と言われました。少しむず痒いような気もしましたが、自分の親をほめられたようで誇らしくもありました。

「霧の中を行けば覚えざるに衣しめる。善き人に近づけば覚えざるに善き人となるなり」というお示しがあります。これは、霧の中を歩いていると自然と着ているものが湿っていくように、置かれている環境に、知らず知らずのうちに影響を受けるといふ教えです。善い人のそばにいれば、自然と善い方向へ、逆に悪い人のそばにいれば、悪くもなっていくということなのです。

しかし、善い人ばかりの環境にいられるのは素晴らしいことですが、人生はそんなに上手くはいきません。学校や会社で、付き合う人を限定するのは難しいことでしょう。

自分に不利な状況が続いたとき、悪いのは周りの環境だからとあきらめるのではなく、自分が良い手本となるよう自らを律して、善い霧となるよう心がけることが大切です。そうすることで、自分や周りも自然に善い影響を与えあうようになれることでしょう。